

24

社内で全部行うのと、ほとんど社外に任せるののでは、
メリット・デメリットはどうですか？

●社内ですべて済ませると、大成功もありますが、失敗もしやすいです。

Q18に、社史を編纂するのに必要な作業の一覧を掲載しましたが、これらはすべて、社内
でこなすことが可能です。ただし初めての経験ですから、適切なガイド役（制作会社）がい
れば効率的で失敗のリスクが少ないということです。反対に、外部の者には絶対にできない
ことがいくつもあります。「どういう社史がほしいのか」を決めること（方向付け、決裁に
類すること）と、社内での資料収集です。

すべて内部で制作する場合の最大のメリットは、納得がいくまで念入りに編纂できるとい
うことでしょう。特に本文を記述する際には「会社として主張したいこと」「あまりふれた
くないこと」といったかゆいところに手が届く編集ができます。不況期の人員整理について
「その後の調査により、立ち去らざるをえなかった方々が、すべて次の活躍の場を見出すこ
とができたことがわかった。心の痛むなかにも喜ばしいことであった」と書かれた社史を目
にしたことがあります。このような社風がにじみ出るような感情のこもった記述は、社内

	すべて内部制作	外注先を活用
費用	<p>◎安い。印刷費+デザイン費だけなので、外部に出る経費は安い。ただし、制作にあたる社内の人件費を考えると割高になることもある。</p> <p>×制作途中で企画に変更が起こったとき、費用の増減が確認しにくい。</p>	<p>△コストがかかる。(企画費+執筆費+編集費+デザイン費+印刷費)</p> <p>◎費用の変動について常に確認をとりながら進めることができる。</p>
スケジュール	<p>△大きくずれることがある。</p>	<p>◎大きくずれることは少ない。</p>
内容	<p>◎内部事情に十分配慮しながら、専門分野につこんだ記述ができる。</p> <p>△客観性に欠ける傾向あり。</p> <p>△出来上がりにばらつきあり。</p> <p>△見栄えのよいものをつくりにくい。</p> <p>△読者対象が社員に限定された内容になりやすい。</p>	<p>△内部の事情に詳しくないので、記述内容の調整に工夫と手間が必要。</p> <p>◎客観的に記述できる。</p> <p>○平均的なレベル以上のものは期待できる。</p> <p>○(予算によるが)見栄えはよい。</p> <p>◎外部の読者を視野に入れた内容を可能にする。</p>
労力	<p>△原案づくり、検討、決裁、進行・費用の管理がすべて内部スタッフの負担。</p>	<p>◎原案づくり、進行・費用の管理は外部スタッフが分担できる。</p>

▲内部制作と外注のメリット・デメリット

執筆ならではありません。このような書き方は、外部の者にはまですできないでしょう。反対に、悪いほうに作用すれば、自己満足、我田引水に陥りがちです。

基本的に外部に委嘱する場合のメリットは、スケジュール・品質などの面で一定水準を期待できることです。この場合の品質とは、「誰がみても一定の水準」ということです。内部作成は家庭料理の味、外部作成は料理屋の味、とお考えください。